

## 自己評価報告書

平成23年 4月11日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20330072

研究課題名 (和文) オーストラリア政府接收資料を中心とする戦前の日豪交易の社会経済史研究

研究課題名 (英文) Socio-Economic History of the Japan-Australia Trade in the Prewar Period: A Study Based on the Records Seized by the Controller of Enemy Property of Australia

研究代表者

天野 雅敏 (AMANO MASATOSHI)

神戸大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：80122985

研究分野：日本経済史

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：オーストラリア政府接收日本商社資料、兼松房治郎、兼松商店、三井物産在豪支店、羊毛買付、金融力

## 1. 研究計画の概要

本研究は、昭和16(1941)年12月日米開戦にともなって、オーストラリア政府により接收された日系諸企業の資料にもとづき、戦前の日本と豪州の交易について、主として貿易商社の動向に焦点をあてて本格的な社会経済史研究をおこなおうとするものである。オーストラリア政府に接收された日本の貿易商社の資料はオーストラリア国立公文書館シドニー館に所蔵されており、そこには、明治23(1890)年にシドニー支店を開設した兼松商店や日露戦後に豪州に進出した三井物産、大倉組、高島屋飯田、第一次大戦後の1920年代初めに進出した三菱商事、日本綿花などの在豪支店の資料が含まれている。また三井物産・三菱商事の在豪支店の資料の一部はアメリカ国立公文書館新館(メリーランド州カレッジパーク)にも所蔵されている。本研究は、オーストラリア国立公文書館シドニー館やアメリカ国立公文書館新館(メリーランド州カレッジパーク)に所蔵されている戦前の日本商社の在豪支店関連資料にもとづいて、戦前のオーストラリア大陸に構築された日系企業の世界と日本の産業社会の関連を追究しようとしたものである。

オーストラリア国立公文書館シドニー館に所蔵されている戦前の在豪日系諸企業の資料は膨大なものであるから、貿易商社に焦点をあてて、戦前の日豪貿易の推移を明らかにしつつ、日豪貿易の主な担い手たる貿易商社の活動を実証的に検討することを課題とした。その際、商社の豪州への進出時期を念頭において、まず明治23(1890)年にシドニー支店を開設した兼松商店をとりあげる

こととし、つぎに日露戦後に進出した三井物産をとりあげ、そして第一次大戦後の1920年代に進出した三菱商事をとりあげることとした。三井物産・三菱商事の在豪支店の資料は膨大なものがあり、研究の困難さが予見されたとはいえ、事業活動の重要性からみて、これらを主要な研究対象としてとりあげることとしたのである。

## 2. 研究の進捗状況

本研究は、戦前の日本と豪州の交易について、主として貿易商社の動向に焦点をあてて本格的な実証研究をおこなうことを課題としていたから、広範な資料調査と研究成果の相互批判の機会をもつことが必要であった。

そこで平成20年度には、研究代表者の天野雅敏と研究分担者の谷本雅之、花井俊介がオーストラリア国立公文書館シドニー館でオーストラリア政府接收日本商社資料の調査を実施し、平成21年度には、研究協力者のテッサ・モーリス＝スズキと田村恵子をオーストラリアから招聘し、天野雅敏、谷本雅之、花井俊介、重富公生が加わり、神戸大学で研究会を開催するとともに、オーストラリア国立公文書館シドニー館において天野雅敏が三井物産、兼松商店関係資料の調査をおこなった。また平成22年度には、オーストラリア国立公文書館シドニー館の所蔵する三井物産・三菱商事の在豪支店資料調査を継続するとともに、アメリカ国立公文書館新館所蔵の三井物産・三菱商事在豪支店資料の調査をおこなった。アメリカ国立公文書館新館所蔵の三井物産・三菱商事在豪支店資料の調査は天野雅敏が、オーストラリア国立公文書

館シドニー館の三井物産・三菱商事在豪支店資料調査は、花井俊介が平成 22 年 9 月に、天野雅敏が同年 9 月と平成 23 年 3 月に実施した。

これらの本格的な資料調査をふまえ、三井物産シドニー支店「考課状」の研究成果を天野雅敏「戦前における三井物産の豪州進出について」(『国民経済雑誌』第 199 巻第 2 号、平成 21 年)としてとりまとめ、兼松商店と三井物産の研究成果を整理して、天野雅敏「戦前における日本商社の豪州進出について―兼松商店と三井物産の事例を中心にして―」(安藤精一・高嶋雅明・天野雅敏編『近世近代の歴史と社会』清文堂出版、平成 21 年)を発表するとともに、それらを拡充して、天野雅敏著『戦前日豪貿易史の研究―兼松商店と三井物産を中心にして―』(勁草書房、平成 22 年)を公刊した。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。  
(理由)

本研究は、戦前の日本と豪州の交易について、主として貿易商社の動向に焦点をあてて本格的な実証研究をおこなうことを課題としており、広範な資料調査と研究成果の相互批判の機会をもつことが必要であったが、オーストラリア国立公文書館シドニー館、アメリカ国立公文書館新館の資料調査は順調に進んでおり、オーストラリアの研究協力者を含む研究会も開催され、そうした主要な研究成果は、天野雅敏著『戦前日豪貿易史の研究―兼松商店と三井物産を中心にして―』(勁草書房、平成 22 年)として刊行されている。また同書は、平成 23 年 1 月関西学院大学で開催された社会経済史学会近畿部会・経営史学会関西部会の合同合評会の対象図書としてとりあげられ、元オーストラリア学会会長で追手門学院大学名誉教授遠山嘉博から高い評価を得ている。また研究協力者の田村恵子も平成 21 年度の来日の際に、20 世紀前半の神戸を中心とする欧米人貿易商の活動とネットワーク形成の実態を究明するための資料調査をおこない、その研究成果の一部を含む論稿を発表した。これらのことから、本研究は順調に進展していると判断される。

### 4. 今後の研究の推進方策

平成 23 年度は、オーストラリアから研究協力者のテッサ モーリス=スズキと田村恵子を招聘し、研究代表者の天野雅敏、研究分担者の谷本雅之、花井俊介、重富公生などが参加して研究会を開催し、研究成果の整理・確認と拡充につとめる。

また、オーストラリア国立公文書館シドニー館の三井物産・三菱商事在豪支店資料の補充調査を天野雅敏が実施する。

そして、これまでの研究成果をふまえて、報告書を取りまとめることとする。なお、この報告書の作成に際しては、兼松商店、三井物産の研究成果のみならず、三菱商事などの研究成果も明らかにしうるように一層の努力をしたいと考えている。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ① 田村恵子、20 世紀前半の神戸の定住西洋人―史料の活用と研究の展開―、海港市研究、第 5 号、29 頁―40 頁、2010 年、査読なし
- ② 天野雅敏、戦前における日本商社の豪州進出について―兼松商店と三井物産の事例を中心にして―、安藤精一・高嶋雅明・天野雅敏編『近世近代の歴史と社会』(清文堂出版)所収、260 頁―293 頁、2009 年、査読なし
- ③ 天野雅敏、戦前における三井物産の豪州進出について、国民経済雑誌、第 199 巻第 2 号、17 頁―32 頁、2009 年、査読なし

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 天野雅敏、天野雅敏『戦前日豪貿易史の研究―兼松商店と三井物産を中心にして―』(勁草書房、2010 年 4 月)をめぐって、社会経済史学会近畿部会・経営史学会関西部会合同例会、2011 年 1 月 8 日、関西学院大学(兵庫県)
- ② 田村恵子、神戸にきた英国人たちの光と影、北野町山本通伝統的建造物群保存地区 30 周年記念講演会、2010 年 2 月 6 日、北野工房のまち講堂(兵庫県)
- ③ 天野雅敏、戦前における日本商社の豪州進出について―兼松商店と三井物産の事例を中心にして―、数量経済史研究会、2008 年 9 月 4 日、財団法人国際高等研究所(京都府)

〔図書〕(計 1 件)

- ① 天野雅敏、勁草書房、戦前日豪貿易史の研究―兼松商店と三井物産を中心にして―、2010 年、166 頁